

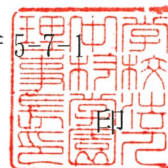
(別紙様式3)

令和3年 3月 31日

事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福岡県福岡市城南区別府
管理機関名 学校法人中村学園
代表者名 中村 量一



令和2年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

記

- 1 事業の実施期間
令和2年 4月 10日(契約締結日)～ 令和3年 3月 31日
- 2 事業拠点校名
学校名 中村学園女子高等学校
学校長名 奥井 裕紀子
- 3 構想名 食の課題解決により持続可能な社会を創出するイノベーターの育成

4 構想の概要

これまでの SGH 事業の成果をさらに発展・充実させながら、地球規模の課題「食」に関わる探究活動による課題解決を通じて Society 5.0 をたくましく創造的に生きる人材を育成する。ここで扱う「食」の課題は、食に関わる4領域（社会文化・環境・経済・栄養）及びSDGsのターゲットである。この教育的基盤となるALコンソーシアムを組織し、拡大と発展を図りながら、広く生徒たちに高度な学びの機会を提供し、より多くのイノベティブなグローバル人材を育成する。育成過程において、文理融合型のカリキュラムやイノベーションスキルの育成法・評価法、生徒の多様な目的や課題に対応した国内外の研修先の開拓、留学生との協働を最適化する実践プログラム、大学教育の先取り履修による高度な学びの提供方法等の開発へ特に注力することで、「食」を切り口として新しい価値を創造し、グローバル・イノベーターを育成するための教育プログラムのスタンダードモデルを創りあげる。

- 5 教育課程の特例の活用の有無
無し

- ## 6 管理機関の取組・支援実績
- ### (1) 実施日程

[illegible]

③ AL ネットワーク連絡会の開催												17 日 25 日
④ AL ネットワークの拡充				APU と MOU 締結						← トマトアイスクリーム販売 →		
					← GI フィールドワーク (グローバル・キャンパス) →		食のサミット	調整	APU と 研修企画 情報交換	← ネット連絡・調整 →		
⑤ 海外交流アドバイザーの雇用・拠点校への派遣	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(Ⅳ) 教員研修・セミナーの実施	4 回 外部 1 回				1 回	2 回	1 回	外部 1 回				
(Ⅴ)① 留学プログラム・海外研修・セミナー等への参加支援								全国高 校生 SR サミット FOCUS※	全国 高校生 フォーラム ※			高知西 発表会/ 留学支 援金制 度設立

※ 新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン開催

(2) 実績の説明

(Ⅱ) 国内外の連携校、事業協働機関とのネットワーク構築・管理運営

① 運営指導委員会の開催 (年 2 回)

運営指導委員会では、これまでの SGH 事業と同様に AL ネットワークの外部から管理機関が委嘱した運営指導委員を招き、事業に関する計画と実施の成果と課題に関する報告を行い、それらに対する指導と助言をいただいた。

② 検証委員会の開催 (年 2 回)

当初は年 2 回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策による休校や事業内容の遅延等により検証データの十分な集約ができなかったため、年度末の 1 回に変更した。この会では、予め 2 名の外部委員に事業効果の検証をするためのデータ（拠点校における留学生数、連携校との交流等の 27 項目）を送信し、それらの情報について精査していただき、データについての意見や質問に回答していただく形で実施した。

③ AL ネットワーク連絡会の開催 (年 1 回)

また、初めての開催となった AL ネットワーク連絡会には、3 月 17 日に主に連携する高校や大学の関係者を対象として国内から 5 名、海外から 5 名、同月 25 日に主に事業協働機関である企業等の代表者を対象として国内から 5 名がオンラインで参加した。3 月 25 日実施分は、第 2 回運営指導委員会と同時開催することで運営の効率化を図った。会では、主に事業の年度総括及び次年度計画を伝達し、それらに関する質疑応答を行った。

④ AL ネットワークの拡充

今年度は、高校 1 年生の GI フィールドワーク Basic (グローバル・キャンパス) や学校説明会等で連携している立命館アジア太平洋大学 (APU) と正式に MOU を締結し、拠点校の創立 60 周年記念に合わせ 11 月 20 日に APU の出口治明学長にご講演をいただいた。また、今後実施するフィールドワーク Advance 等の海外研修の企画・運営について、APU の近藤祐一教授に助言をいただいた。

探究活動の集大成の場となる拠点校の恒例行事「食のサミット」の実施は、新型コロナウイルス感染症対策により、海外の連携校とはオンライン会議のみ実施した。また、国内の連携校とはオンラインも併用しながら、可能な限り実際に拠点校に来校していただくことで実施できた。この実施に向けて、国内外の連携校間の連絡・調整を 9 月から続けてきた。

高校 3 年 SG クラス生徒が、福岡県内の農家と老舗アイスクリーム業者とのコラボレーション

で開発したトマトアイスを12月より本学園や市内数店舗で販売を開始した。販売にあたっては事業協働機関である株式会社リンガーハットのご協力をいただいた。

2月には、探究活動のより一層の充実を図る目的で、理数系・技術系に実績のある海外の高校との新たな連携先についての情報収集を開始した。

⑤ 海外交流アドバイザーの雇用・拠点校への派遣

海外交流アドバイザー1名を管理機関の所属として雇用し、拠点校へ出向という形で派遣し、海外の連携校との連絡や留学生の対応等の業務に従事することで、事業の円滑化を図った。

(IV) 教員研修・セミナーの実施

① 教育研修・セミナーの実施（年数回・不定期）

拠点校では、新型コロナウイルス感染症対策による4～5月の休校期間中に、臨時時間割を作成してオンラインによる遠隔授業を実施した。そのために指導者として必要とされるオンライン授業の基本的な要領についての研修を4月に4回開催した。また、8～10月には「中村学園2030年ビジョン」に向けての教育改革の取り組みの一つとして、令和4年度から実施される新学習指導要領のもとでのカリキュラム案作成について、拠点校において数回に分けて研修を行った。さらに11月には、ICT教育の推進をテーマとした福岡県私学協会主催の授業力向上研修会に、拠点校教員2名を分科会講師及び受講生として派遣した。

② 中村学会の開催（月1回）

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、開催を中止した。

(V) イノベーティブなグローバル人材育成を目的とする生徒対象の研修の実施

① 留学プログラム・海外研修・セミナー等への参加支援

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のために数々のイベントがオンライン開催となった。主なイベントとしては、文部科学省が実施する東京での全国高校生フォーラム、立命館宇治高等学校が主催する近畿圏での高校生サミット FOCUS 等である。連携校である高知西高等学校の主催する3月に開催された探究成果発表会には、発表生徒3名と引率教諭1名の派遣に対して支援を行った。また、同じく3月に拠点校で実施した「食のサミット」へは、連携校である京都学園高等学校の参加に伴う旅費の一部を支援した。

さらに、令和3年度からはGI留学プログラムに参加する生徒を支援する目的で新たに留学支援制度を設ける予定である。今後詳細な計画を決定し、それに基づき運用を行っていく。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和2年4月10日～令和3年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(I)①文理融合型カリキュラムの原案作成・検討		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
(I)②カリキュラム検討委員会の開催	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
(I)③「GI探究」「英語探究」の実施、教材開発	←											
(I)④留学プログラムの実施										← ※1 →		
(II)①教育開発部会の開催	3回		3回	1回	3回	7回	1回	1回	3回	2回	2回	3回
(II)②「食のサミット」の開催											グレ26日	25日 グレ1・9・12日

(Ⅱ)③探究型教科での合同の授業や会議等の開催												○	○
(Ⅲ)科目履修生制度の実施													
(Ⅴ)①GI スタートアップセミナーの実施	※1												
(Ⅴ)②GI フィールドワーク Basic の実施							28 日	4 日					

※1 新型コロナウイルス感染症対策のため実施を中止（当初予定していた期間に※印記入）

（２）実績の説明

（Ⅰ）文理融合カリキュラムの開発

① 文理融合型カリキュラムの原案作成・検討

令和４年度から開始する新教育課程に合わせ、教育開発部で文理融合型カリキュラムの導入に関する検討を行った。主として次の２点を新カリキュラムに盛り込むことを検討している。

- ▶ 学校設定教科「グローバル探究」…現在実施している「総合的な探究の時間」とは別に、「GI 探究」の内容をベースとした新しい教科を全学年・全クラスで実施できるようにする。
- ▶ 選択制科目の導入…高校２・３年において、文系や理系に関係なく生徒の興味・関心や進路に合わせた履修科目を選択できるようにする。科目の設定にあたっては、拠点校の系列である中村学園大学・短期大学部との連携も視野に入れ（例えば「経済学入門」「心理学入門」等）、可能な限り多様な選択ができるようにする。

② カリキュラム検討委員会の開催（不定期・随時開催）

春期職員研修でのテーマの一つとして、令和４年度から実施のカリキュラム検討が掲げられ、拠点校の教育開発部では研修の時間外にも毎週の定例部会でこの検討を進めた。カリキュラムアドバイザーである中村学園大学・短期大学部の占部賢志教授には９月末にご参加いただき、新学習指導要領のもとでのカリキュラム作成の重点項目についてご意見及びご助言をいただいた。まず、現在は総合的な探究の時間の一部として扱っている「GI 探究」について、令和３年度入学生から独立した学校設定教科にすること。これに加え、令和４年度入学生からは、新たな学校設定教科「グローバル探究（仮称）」を設け、全クラスが３カ年を通して学べるようにカリキュラムに盛り込むことを検討している。

③ 「GI 探究」「英語探究」の実施、教材開発（GI クラス／通年）

今年度の新入生より開設した GI クラスにおいて実施する、グローバル・イノベーター（GI）を育成するための核となる探究型科目である。３カ年に渡り系統的な内容を PBL によって学習する。実施初年度となる入学生の１年次においては、総合的な探究の時間２単位を GI 探究として、英語探究を課外授業２単位相当として展開した。（次年度入学生については、「GI 探究」を学校設定教科として３カ年を通して計５単位扱うことを決定している。）１年次の目標は、日本と世界を知ること、食に関する地球規模の諸問題を知った上でそれらの解決策を見出すこと、SDGs との関連性について考えること等とした。コロナ禍において外部での活動が制限される中、SGH 事業で取り組んできた食の４領域の PBL 実践をベースにして、留学生や外部人材との繋がりを重視しながら、机上の学習活動だけではなく実習も積極的に採り入れるようにした。その一例としては、食と環境の分野におけるコンポスト製作と堆肥化、食文化伝承のための味噌造り等があげられる。

④ 留学プログラムの実施（高校１年生 GI クラス希望者対象／３学期）

グローバル・イノベーターとして必要な英語運用能力を身につける目的で、GI クラス１年生の希望者を対象とした留学プログラムを企画した。渡航先はカナダのトロント近郊で、期間は１月中旬からの約３ヶ月間とした。参加する生徒は、ホームステイをしながら現地の学校に通い、語学研修や通常の授業、様々なアクティビティを経験する予定であった。GI クラス在籍

者 36 名のうち、27 名の参加希望があった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の広がりとともに、出発の約 1 ヶ月前に今年度のプログラムの中止を決定した。今回の未実施分の代替として、2 年次の夏期休暇中の海外研修、あるいはオンライン実施による模擬的な海外研修の企画を検討する。

(Ⅱ) 国内外の連携校、事業協働機関とのネットワーク構築・管理運営

① 教育開発部会の開催（原則として週 1 回）

教育開発部は、拠点校に設置され、実行委員長である校長の命を受けて本事業を円滑に進めていくための部署である。原則として毎週（水曜 7 限目に）開催する部会では、カリキュラム開発をはじめ、国際交流、進路指導や高大接続、教育力向上を図るための指導法改善や研修の実施等について議論した。

② 「食のサミット」の開催（年 1 回）

毎年夏に開催してきた、地球規模の食問題とその解決策を討議する模擬国連形式の国際会議である。今年度はテーマを「食の安全性」とした。当初は 8 月下旬の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、年度末に延期するとともに、海外チームは招待せずオンラインで 2 回の事前会議のみを行った。国内チームは連携校である 3 校を招き、2 回のオンライン事前会議と約 5 時間に及ぶ本会議を行い、共同宣言書を作成することができた。後日、学校長により国連 WFP 協会へ提言書として手渡すことにしている。

③ 探究型教科での合同の授業や会議等の開催（不定期・随時開催）

連携校との合同授業の計画は担当者間では協議を進めていたが、新型コロナウイルス感染症対策のための休校措置などで日程の調整がつかず今年度は実施できなかった。しかしながら、連携校との「食のサミット」プレ会議を国内校及び海外校とに分け、2 回ずつオンラインで開催できたことは幸いであった。

上記のような AL ネットワーク内に限らず、ネットワーク外の様々な方々と連携した数多くの取り組みが実施できた。以下に各学年での主な実践例を記す。

- ▶ 1 年 GI クラスの「GI 探究」では、アジア高校生架け橋プロジェクトにおいて拠点校で過ごした留学生が母国へ帰国した後、解決すべき自国の課題や食文化等についてオンラインで情報交換を行った。また、それらをまとめた課題研究の発表もオンラインで繋いで質疑を行った。
- ▶ 2 年 SG クラスの「探究科」では、福津市の魅力化プロジェクトを進めるために、市役所や企業の方々とオンラインで繋ぎ、生徒発表と質疑応答を行った。10 月と 3 月には、クラスの生徒全員が実際に現地を訪れ、調査や魅力化のための視聴動画の撮影等を行った。
- ▶ 3 年 SG クラスの「探究科」では、朝倉市の農園で廃棄されるトマトを活用したアイスクリームの商品開発を地元企業とのコラボレーションで行い、オンライン及び来校により活動内容の説明や意見交換を実施した。

(Ⅲ) アドバンストプレイスメント(AP)の実施

① 科目履修生制度の実施（高校 2 年生希望者対象／9～1 月）

昨年度より開始した中村学園大学・短期大学部の科目等履修であるが、今年度はオンライン及びオンデマンドでの受講となった。受講し易さも相まって、昨年度の 10 名から今年度は 39 名と飛躍的に受講者が増加した。また、受講できる講座数も昨年度の 11 講座から 34 講座へと大幅に増え、より生徒のニーズに合った選択が可能になった。今年度は 27 名が単位を修得した。

(Ⅴ) イノベーティブなグローバル人材育成を目的とする生徒対象の研修の実施

① GI スタートアップセミナーの実施（高校 1 年生 GI クラス対象／4 月）

GI クラス新入生を対象とした入学後最初に実施する研修であり、高校生活における学習面や生活面でのアドバイスをし、目指すグローバル・イノベーター（GI）の人物像、取り組みへの心構え等の習得をねらいとするものである。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策によ

る休校措置のため実施できなかった。

② GI フィールドワーク Basic の実施（高校 1 年生全員対象／10～11 月）

今年度の新入生より GI クラスを開設したため、平成 26 年度より毎年実施してきたグローバル・キャンパスの名称を本事業では「GI フィールドワーク Basic」と称する。この行事は、APU の留学生との宿泊研修を通じて、英会話力の向上、異文化交流、地球規模の食に関する課題発見とその解決等を図るために PBL 型の探究学習で進め、グローバル・リーダーを育成することをねらいとするものである。当初は 9 月に 2 泊 3 日で実施する予定であったが、コロナウイルス感染症対策のため APU 留学生の日程調整や実施場所の再検討が必要になり、結果として学年を 2 団に分け、10 月 28 日に 6 クラス 187 名、11 月 4 日に 7 クラス 257 名で各団 1 日ずつのオンライン研修を実施した。GI クラスは両日とも参加した。

8 目標の進捗状況、成果、評価

（1）管理機関における進捗状況、成果、評価

AL ネットワークの構築については、APU との MOU 締結が今年度の最大の成果と言える。また、拠点校における GI フィールドワーク Basic では APU との協働による企画・運営が実現できたことは評価に値する。コロナ禍による計画の変更を余儀なくされたが、円滑に各種委員会は機能しており、管理機関における人員配置や予算措置には特に問題はなく、今後も組織的な運営を図りたい。

（2）拠点校における進捗状況、成果、評価

事業初年度であり、本事業の核となる GI クラスの 1 期目の入学生を迎えたことで、新規の取り組みも多く、担当者がこれまでの経験を生かし試行錯誤をくり返すことで、円滑に事業を進めることができた。しかしながら、予期せぬコロナ禍によって実施できなかった部分もあるため、次年度に持ち越して実施の検討を継続していく。実施できなかった主な取り組みとしては、4 月に予定していた GI スタートアップセミナー、1～3 月に予定していた GI 留学プログラムである。GI スタートアップセミナーについては、入学後のオンラインでのオリエンテーションやホームルーム活動でセミナーの内容を含む形で代替した。また GI 留学プログラムについては、3 ヶ月間の長期に及ぶことや学年を変えての実施が難しいことから、次年度には語学研修を主体とした海外研修（オンラインを含む）を新たに企画することを代替案として検討している。

成果としては、年度末に実施した生徒対象の事業効果検証アンケートの GI クラス 1 年生の結果を他の 1 年生の結果と比較したところ、35 の質問項目中、25 の項目で上回る値を示した。特にアイデンティティやコミュニケーション力、グローバルキャリア形成への意欲が高い。しかしながら、イノベーターとして必要と考えている「高次の課題解決力」や「調和力」、「持続可能な社会実現の可能性へのマインドセット」については、ほとんど差が見られなかった。イノベーターとしての本格的な内容は 2 年次以降としているため、今後の育成とそれによる能力の向上が望まれる。

（3）連携校・事業協働機関における進捗状況、成果、評価

国内外の連携校とは、新型コロナウイルス感染症対策のため、高知西高校と海外の学校とが対面によるイベントの参加ができなかったが、「食のサミット」のプレ会議等、オンラインでの情報交換を行うことができた。コロナ禍においてもすべての連携校と何らかの繋がりを持っていたことは評価できると考えている。

事業協働機関については、カリキュラムや事業内容の関係から、すべての機関と協働できたとは言いが、それでも多くの機関と連携し成果をあげることができた。例えば、ハワイ大学やウエストミンスター大学、APU は進学説明（実際に各校に進学した）、マーセッド大学はオンライン教員研修、国連 WFP 協会は「食のサミット」の提言書提出、NPO 法人 Table For Two は「おにぎりアクション」等があげられる。

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 管理機関における課題及び改善点

今年度はコロナ禍で実施できなかった外部講師を招聘しての教育力向上のための教員研修を実施したい。特に令和4年度より導入する新カリキュラムの実施へ向けて、教員の探究授業の実践力を強化するための研修を計画する。また、ALネットワーク内の連携をより高められるよう、特に事業協働機関とは管理機関が綿密に連絡をとり、より積極的に高度な学習環境の整備・構築にあたる。拠点校GIクラス2年次のアントレプレナーシップ講座の実施や探究活動での企業コラボ、ALネットワークに入る新たな地元のベンチャー企業との協働等に特に注力する。

(2) 拠点校における課題及び改善点

拠点校の教育開発部において進めてきた令和4年度からの新カリキュラムが承認され、正式決定されるよう、資料等の準備を進める。特に文理融合型の学校設定探究教科及び生徒の興味・関心や進路選択に応じた選択制科目の導入を積極的に進めていく。

今年度の事業効果検証のための生徒アンケートにおいて、イノベーターに必要な資質や能力を問う項目を新たに設けた。次年度はGIクラス2年目にあたるため、本格的にイノベータティブな人材育成を図るための学習活動が入ってくる。これに対応するため、イノベーターとしての資質・能力を様々な視点で測るアンケートや自己評価、学習過程における形成的評価等の手法を開発する。

予期せぬ全世界的な新型コロナウイルスの感染拡大は、本事業のみならず学校全体の教育活動に大きな影響を及ぼしている。しかしながら、結果として授業や会議、他のイベントの開催をオンラインで実施することのメリットが明確になった。今後もコロナウイルスや他の疫病との共存は避けられないことを予測し、事業の様々な場面でのオンライン実施の是非を含めた可能性についても研究する。特に今年度できなかった連携校との授業や教員どうしの研修や交流、海外研修等のオンラインでの実施を検討する。

【担当者】

担当課	教育開発部	T E L	092-831-0981
氏 名	平田 晃己	F A X	092-831-0985
職 名	教育開発部 部長	E-mail	hirata@njh.ed.jp